

普及活動情勢報告（平成28年2月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

五王堂集落を守る仕組みをつくろう



営農構想について協議する様子

1月29日、五王堂集会所において五王堂集落の農家5名と香美市、JA等が参加し、集落の将来についての営農構想を協議しました。10月に行った現地調査や話し合いの結果を地図に落とし、ユズ、水稻、野菜等のエリアをゾーニングした営農構想の素案が完成しました。参加者からは、「理想的な構想」、「現実には農地の利用調整が難しい」などの意見が聞かれました。農業改良普及課から今後の営農の意向を把握するためアンケート調査を行うことを提案し、実施することが決まりました。

農業改良普及課では、今後も五王堂集落を守る仕組みづくりとその実現に向けて支援していきます。

集落営農組織をより力強い経営体へ！ ―第4回香美市集落営農塾(法人化コース)の開催―



集落営農塾の様子

2月4日、永野コミュニティセンターにおいて、西永野集落営農組合を対象に集落営農塾を開催し、4名が参加しました。組織は今後の園芸品目の導入や圃場整備事業に向けた体制整備として法人化を検討しています。農業改良普及課からは、法人化のメリット・デメリットを説明し、法人の経営シミュレーションを提示しました。参加者からは、「はやく法人化したい」等の声が聞かれ、通常総会での協議へ向けて準備を進めていくことが決まりました。

農業改良普及課では、今後も集落営農組織の法人化を支援していきます。

6次産業化支援チーム会で加工品の商品化を進めています



松田アドバイザーから
助言を受けるチーム員

1月26日、農業改良普及課は香美市基幹集落センターにおいて加工グループ「にろうまいこ」の4回目の「6次産業化支援チーム会」を開催し、菰生の里理事ほか関係機関を含む20名が出席しました。松田アドバイザーによる、「商品パッケージや表示」、「値段設定について」の講義後、農業改良普及課からは、試作品の「かるかん」の原価計算や品質表示について説明しました。さらに、試作品を用いて、ネーミングやパッケージなどについて意見交換しました。「中味が見えるものが良い。シールなどを貼っては。」など、アドバイザーの助言も受けて、商品形態が概ね決まりました。3月の土日为目标に、菰生の里での販売に向けて、意欲的に取り組みを継続しています。

農業改良普及課では、包装資材を工夫して賞味期限を延ばすなど販路拡大のため、商品改良の支援をしていきます。

トルコギキョウ環境制御現地検討会の開催



現地検討の様子

2月4日、香南市野市町の炭酸ガス施用実証ほ場においてトルコギキョウ環境制御現地検討会を開催しました。県内産地から農家、J A、県関係者など25名が参加しました。

農業普及課から、実証試験の途中経過について報告しました。炭酸ガス施用の主目的は、蕾が成長途中で死んでしまう「ブラスチング」の軽減です。昨年の秋には夜温が高く日射量の少ない日が多かったことから、作型によってはブラスチングが多発しました。そのため、炭酸ガス施用に対する農家の関心も高く、熱心に説明を聞いていました。

農業改良普及課では、農家の期待に応えられるよう、情報発信していきます。

寒い季節だからこそ適正な管理をしよう（冬季管理及び幼木の育成管理）



講習会の様子

1月28日J A土佐香美物部ユズ部会員23名が参加し、冬期管理講習会を開催しました。

農業改良普及課では、生産者の聞き取り結果から厳寒期の防除や幼木管理などが疎かとなり幹腐病の発生や幼木の生育障害を助長していることが推測されました。そこで、厳寒期の防除や管理を的確に励行してもらうため、薬剤の機能や生育障害の発生要因等を説明しました。生産者からは、「なぜ作業するのか理解できた」、「防除の適期が理解できた」など、前向きな意見が出されました。

今後も講習会や現地実技講習の取り組みを増やして、部会員の技術とやる気の向上を支援します。

切り過ぎや強誘因は逆効果。長い目で育てよう・・・ユズの整枝剪定講習会



成木の剪定講習の様子

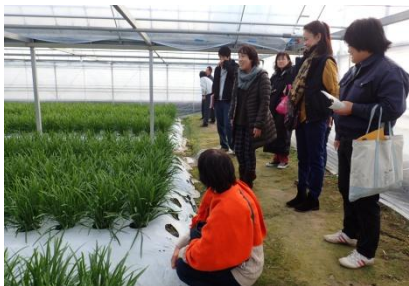
2月8日、J A土佐香美物部ユズ部会員43名が参加し、成木と幼木について整枝剪定について実技講習会を行いました。

多くの生産者が樹を一度に整形しようとして、枝を切りすぎたり、強誘引によって樹勢を乱したり樹を傷めたりしています。そこで、長期計画での取り組みが重要であることを実技で示しました。

生産者からは、「切り過ぎを防ぐために不必要な枝でも残す必要が理解できた」、「幼木の誘引では成長点を下げてはいけない理由が理解できた」などの意見が出されました。

農業改良普及課では、今後も適正な整枝剪定が行えるように技術指導に取り組んでいきます。

岩村地区でニラ現地検討会を開催



生育状況を確認する生産者

J A 南国市ニラ部会岩村女性部の現地検討会が1月22日に開催され、生産者5名が参加しました。

生産者のほ場において、生育状況を確認しながら、栽培管理について意見交換がされ、「今年は根張りが良く、肥料の吸収も良いように感じる。」といった声が聞かれました。

農業改良普及課からは、気象情報やネダニとネダニモドキの薬剤検定結果について情報を提供し、ネダニの防除を行っても被害が収まらない場合には、ネダニモドキの可能性のあることを説明しました。

今後も農業改良普及課では、ニラの安定生産に向けて支援していきます。

ニガウリ現地検討会の開催



環境測定モニターを見ながら
意見交換中

2月1日にJ A 土佐香美夜須支所管内の促成ニガウリ生産ほ場で現地検討会を開催し、生産者3名が参加しました。生育状況を見ながら、整枝方法や土づくり、かん水管理などについて意見交換を行いました。農業改良普及課から、2か所のほ場で測定したハウス内環境の測定値と、生育調査結果についての情報を提供することで、草勢の判断方法や炭酸ガスの施用方法（ダクトの配置方法）などについて検討し、草勢や生育バランスに応じた気温や湿度管理方法について意見を交換しました。

今後も調査を継続し、生産者への情報提供を行い、生産の安定に向けた支援をしていく予定です。

環境制御技術を磨こう！ ～南国市施設園芸環境制御技術研究会視察研修～



次世代型ハウスの環境制御機器
について説明を受ける研究会員ら

南国市施設園芸環境制御技術研究会は、環境制御技術の習得のために、月2回程度の現地検討会や定期的な講演会等を開催しており、農業改良普及課では指導しています。

2月19日には、研究会3人とメーカーが西島園芸団地の次世代型ハウスに赴き、職員からハウスや暖房機、灌水装置等の仕様や制御装置で管理しているメロン栽培について説明を受けました。生産者からは「使用している制御機器は設定項目が多いため複雑だが、細かな管理が可能となり、魅力的だ」と語っていました。

農業改良普及課では今後も、同研究会への運営や情報提供等を通じて活動を支援します。

キュウリ先進地視察研修



黒潮町大方の篤農家ほ場にて

J A土佐香美園芸部キュウリ部会では、2月5日に視察研修を実施し、13名が参加しました。農業改良普及課が視察先を提案し、黒潮町大方の炭酸ガス施用など環境制御を行っている黒潮町農業公社と、更新つる下ろし栽培を行っている篤農家を視察しました。参加者は「今年度収量が少ない状況の中でも増収となっている」など、視察先での取り組みについて高い関心を持ち、熱心な質疑応答がされていました。農業改良普及課では今後もキュウリの安定生産に向けた取り組みを支援していきます。

「大葉サミット」で産地間交流



現地研修での意見交換の様子

2月17日、南国市で「第8回大葉サミット」を開催し、県内のオオバ生産者やJ A、県関係者ら54名が参加しました。

「大葉サミット」は、3ヶ所ある県内産地が持ち回りで開催し、生産者の交流と栽培や取り組みを共有する場となっています。現地研修では、オオバの葉形や仕立て状況、灌水設備等について意見交換し、会議では、県農業技術センターから研究課題について報告されるなど、多くの質問がだされて充実した会となりました。

農業改良普及課では、課題となっているシソモザイク病等の発生状況等についてアンケートを実施しました。結果は、今後の防除対策に役立てていきます。

メロンが順調な生育！ ～（株）西島園芸団地の現地検討会から～



事業を導入したハウスでの生育状況

西島園芸団地は、メロンの品質の向上のために、外部指導者や種苗会社を講師として招き、毎月現地検討会を開催しています。農業改良普及課では、情報提供や栽培管理に関して助言しています。

1月19日には、次世代施設園芸モデル事業で導入したハウスで、昨年11月から栽培を始めたメロンの生育状況について意見が交わされました。交配後約1ヶ月が経過した時期ですが、指導員などから「除湿は最低限に」「湯温を上げてよい」「発酵果に気をつけるように」などアドバイスされました。今作は新しいほ場での初作で、新たな環境制御機器を使用していることもあり不慣れで栽培管理に苦慮しています。

農業改良普及課は、今後も法人経営の安定に向けて支援していきます。

炭酸ガス施用効果を実感！ ～イチゴ高設栽培研究会現地巡回から～



イチゴの実太りを実感する会員ら

2月3日、農業改良普及課は、今年度環境制御技術導入加速化事業で炭酸ガス発生機等を導入した南国市のイチゴ高設栽培研究会4戸のは場を巡回し、施用方法などについて指導しました。

12月上旬から全員が本格的に炭酸ガスを施用しており、現在2番果を収穫中で、平年に比べて「実の太りがよい」、「3Lサイズが取れ続ける」と炭酸ガス施用の効果を認識していました。更に、「県外の施用事例もほしい」と意欲をみせていました。

農業改良普及課は同研究会を定期的に巡回し、全員の増収・品質向上に向けて支援し、環境制御技術の確立を目指します。

管内全域に環境制御技術を普及させよう ～中央東地区環境制御技術普及推進会議から～



第2回中央東地区
環境制御技術推進会議から

1月28日、香美農林合同庁舎で、今年度2回目の中央東地区環境制御技術普及推進会議を開催し、炭酸ガス実証農家や研究会代表等生産者9名、JAや県関係者ら29名が参加しました。

農業改良普及課は主催者として、環境制御技術普及推進計画と炭酸ガス実証ほの進捗状況について説明しました。今作から炭酸ガス施用を始めた生産者からは「1月は今まで経験がないくらいに収量が増えた」「思ったより調子がいい」「(前年比)これまでに60%の増収」と効果を実感しており、普及に向けては「先に導入した人が結果を出すこと」と語っていました。

農業改良普及課では会で出た意見を次年度以降の環境制御技術普及推進計画に反映し、更なる普及・定着を図ります。

南国市でシシトウ生産者大会を開催（力強いシシトウ産地の育成）



若手生産者の出席が増えました

2月2日、南国市においてシシトウ生産者大会を開催しました。農家、市場関係者、農協などの関係機関を含め、総勢73名が参加しました。農業改良普及課は、事務局として会議の運営、関係機関との役割分担などの調整を図りました。

今年は、「産地の取り組み紹介」として若手生産者3名が発表し、市場担当者との意見交換を行いました。参加者のアンケート結果からは、「とても刺激になった」、「自分も頑張りたい」との回答が多くありました。

生産者の高齢化、栽培面積の減少という厳しい状況にあり、農業改良普及課では、現状の生産量を確保するために新たな課題を設定し、産地の維持・強化に向けて取り組んでいきます。

生育調査で植物の状態を知ろう ～J A土佐香美園芸部ピーマン部会現地検討会から～



生育調査方法を説明する
普及指導員とピーマン部会員ら

2月10日、J A土佐香美園芸部ピーマン部会は、環境制御機器を導入し、生育調査を実施しているほ場で現地検討会を開催し、11人が参加しました。

農業改良普及課は主枝摘心後の生育状況と、今後の温度や灌水管理等について指導しました。

生産者からは、草勢が強い時の温度管理や、生殖成長に傾いた時の灌水方法、回数について等多くの質問が出されました。また、炭酸ガス発生機を導入していない生産者も多く参加しており、環境制御技術の関心を高めることができました。

農業改良普及課では、環境制御装置と増収のための生育診断手法の普及に取り組んでいます。